

令和2年度 押原小学校 学校関係者評価書

令和3年3月1日（月）

実施日 令和3年2月26日（金）14時00分～15時50分

会場 押原小学校図工室

参加者 学校運営協議会委員15名

1 学校側から提案された内容

- ・令和2年度 学校の自己評価の結果と改善策
- ・令和2年度 学校評価（自己評価）にむけた教職員アンケートの結果と改善策
- ・令和2年度 「押原小学校 学校評価 保護者アンケート」結果と考察

2 協議された主な内容

- ・令和2年度自己評価に関しての質疑、意見及び感想
- ・本校の教育活動についての意見及び今後の改善策

* 自己評価の概要

- ・教職員アンケートも各項目において後期の評価数値が向上している。しかし、教職員アンケートの「（1）③登下校時，PTA旗振り当番や地域の方々にあいさつができるなど，児童と地域の交流は深まっているか。」については，後期の中では最も低い評価2.8となった。その要因を探り，対応していくことが必要である。ただし，これに関して，教職員から，児童会活動の取組の成果を指摘する声もあがっている。今後もこの成果を継続させ，明るくあいさつができる学校を目指し，児童自ら主体的に生活を見直し向上させていく学校作りに努めていくことが重要である。
- ・保護者アンケートは15項目すべてにおいて，「そう思う」「どちらかというと思う」の回答割合の合算が93%以上となった。また1つの項目（⑧「学校は，家庭学習について連携を図っている」）を除く全項目において，「そう思う」の回答割合が最も多い結果となっている。このことから，学校が2学期末までに行ってきた教育活動において概ね支持をいただいたと考えることができる。
- ・教職員アンケート・保護者アンケートでも，学習指導に関わる項の肯定率がそれぞれ97%と高い。ただし，「どちらかというと思わない」という回答が，それぞれの項につき2～3%ある。このことから，「分かりやすい授業」，「思考力や表現力などを高める授業」にむけた授業改善に積極的に取り組み，教師の授業力向上を図ることが重要である。特に家庭学習については，保護者アンケート⑧（内容は上述）「1 そう思う」より「2 どちらかというと思う」の回答が多い唯一の項であり，「3 どちらかというと思わない」がアンケートの全体で最も高い。このことは，学校・家庭の連携の必要性を示してい

ると捉えられる。家庭学習については、年度途中で本校として家庭学習の充実に向けて取り組んでいく方針や具体策にむけた方向性を校内で確認したが、今後、さらに各学年の実践を通じて、家庭との連携も図りながら進めていくことが重要である。

3 課題として出された意見及び感想

<あいさつについて>

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用や大きな声を出すことがないようにとの指導があったため、児童はあいさつがしにくいこともあったのではないだろうか。
- ・登下校時は、地域の人に目をあわせてあいさつや声掛けをすることができている。
- ・他の学校の児童生徒と比較をすると、押原小学校の児童はよくあいさつができている。
- ・朝の旗振りをしながら感じるのだが、ここ数年あまりあいさつができていない。登校班の班長がしっかりあいさつする班は班員みんなよくできる。
- ・ここ2、3年自発的に挨拶をする子が減っている。児童会であいさつについて取り組んだ年はとてもよくできていた。意識することで変わっていくと思う。
- ・地域の方の顔と名前が一致すると児童は安心してあいさつができるようだ。

<家庭学習について>

- ・宿題はするが、「自学」は（我が子に限ってだが）あまりできていない。学級担任に相談すると、丁寧に対応していただけた。
- ・「自学」は保護者が関わらないと難しいように感じる。子どもと親がコミュニケーションをとることでできるようになってきた。
- ・昔は「自学」はなく、「宿題をやっておくように」と保護者は声をかけるだけで済んでいた。今は、親も子も先生も大変な時代であり、どこまでやるのか、家庭との連携の取り方が難しいと感じる。
- ・「自主学習」は子どもが興味のあることでないと続かないように感じる。家庭としては、子どもの興味あるものを見つけることが大切ではないだろうか。

<その他>

- ・ネットを利用して各種アンケートができたのはよかった。コロナ禍で大変だったが、その点はよかった。

全体を通して、押原小学校の教育活動はよい評価を得ている。

*特記事項 なし